

古河

6
JUNE
2017



未来の古河市を築く飛躍の年

～市民と共に未来に誇れるまちづくり～

今年度は「第2次古河市総合計画」「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定から2年目となり、それらの施策展開を具体化させていく重要な年度となっています。

市長と新たに就任した副市長、教育長に市政運営への取り組みや今後の思いを伺いました。

【問】秘書広報課(総和庁舎) ☎92-3111

人口減少時代に立ち向かう

市長：古河市の人口は約40年後には約8万人*まで減少し、昭和30年代の人口規模に戻ってしまうと予想されています。人口減少社会への対応は、古河市にとっても極めて重要な課題です。

今までは、市外への流出人口が多く人口が減っていましたが、昨年度は市内への流入人口が大きく上回り、約290人ももの転入超過になりました。これは非常に大きなことです。

この要因の一つには、日野自動車株式会社古河工場の進出があると思います。昼間の働く場所を創出することができれば、古河市で働く人が増え、新たな人の流れができ、社会的流入人口が増えていく。さらに、家族と一緒に古河市に定住することにつながれば、古河市の人口が大きく減るといった予想は覆せると期待をしています。

これからは、さらなる人口増に結び付けるためにも、結婚・出産・子育ての希望をかなえるための支援や医療環境の充実、「若者・子育て世帯定住促進奨励金」などの制度的なサポートを含め、誰もが住みやすく、住み続けたいと思えるまちづくりを目指していきたいですね。

※国勢調査(総務省)および「日本の市町村別将来人口推計人口」国立社会保障・人口問題研究所より

世界に通じる教育環境を

市長：市内には、海外に支店を持つグローバルな企業がたくさんあり、顧客と英語で話す機会もあるかと思っています。コミュニケーションをとり、情報を世界に発信していく際には英語は非常に重要なツールなので、英語教育の強化に対する期待はとても大きいですね。

教育長：教育課程特例校として市立小学校の全学年で英語活動を実施しています。最近では、幼稚園などでも英語活動を始めており、小学1年生から続けて学べる「学習の連続性」が非常に大切です。英語を頭の中に定着させるためにも、連続して英語に触れる環境作りが必要になっています。

子どもたちは恥ずかしがらずコミュニケーションをとることができます。聴く力もすごく発達しているので、ネイティブの英語に触れてしっかりとした発音を覚え、外国人と積極的にコミュニケーションを取れるようになってもらいたい。

そのために、先生たちと一緒に教育プランをしっかりと考え、ALT(外国語指導助手)の増員を行い、生徒も先生もみんなが楽しんで学べる教育環境を整備していきたいですね。

市民が誇る古河市に

市長：都会は利便性が高く、働く場としては最適かもしれませんが、日常のやすらぎや豊かな生活をおくる場所として比較をすると、古河市は非常にポテンシャルが高いまちだと思います。その魅力を最大限に活かしながら、世代を超えた交流を深めていき地域力を高めることで、誰もが古河市に住んでよかったと思えるまちづくりをしていきたいですね。そのためにも、若者や子育て世帯なども含めた幅広い年代が一体となって、いきいきと生活できるよう支援をしていきたいと思っています。

副市長：古河市は地震などの災害による被害が少なく、安心して住める場所です。子育て支援などに力を入れていき、若い人たちが住みたいと思えるまちを目指したいですね。

教育長：昔はサッカーやバレーボールなど「スポーツのまち」といわれた古河市ですが、最近はスポーツをする子どもたちがすごく減っているように思います。公園や運動場などがたくさんある古河市だからこそ、活発に走り回って健全に成長できるまちにしていきたいですね。

A photograph of three men in dark grey suits standing in front of a traditional Japanese wooden fence (karakusa). The man on the left is identified as the Deputy Mayor, the middle as the Mayor, and the right as the Education Director. They are all smiling and have their hands clasped in front of them.

青木副市長

針谷市長

鈴木教育長

第59回水道週間スローガン 「あたりまえ そんなみずこそ たからもの」

思川浄水場

普段何気なく使っている水道について理解を深めるため、6月1日～7日を「水道週間」と定め、広報活動などを実施しています。

昭和34年から行われ、今年度で59回目を迎えます。

当たり前のように使っている水道水。この機会に、改めて水道の大切さについて考えてみませんか。

【問】水道課(三和庁舎)

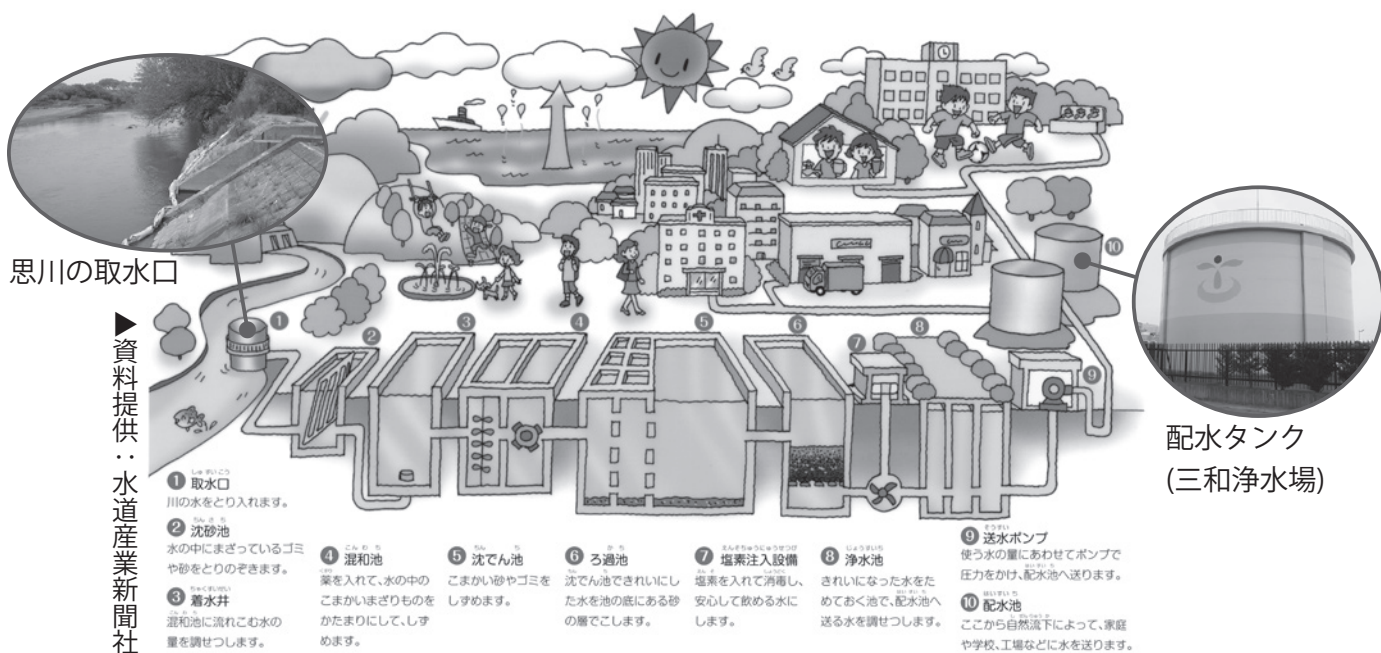
☎76-1511

◆古河市の水道◆

古河市の水道水は、思川表流水、地下水、県水(茨城県企業局より購入した水道水)を水源としています。

古河・総和地区は、思川浄水場・古河浄水場・駒羽根配水場から、三和地区は三和浄水場から配水しています。

※古河浄水場は、渇水等の緊急時のみ地下水の取水を行い、通常時は配水場としての役割をしています。



全体のおよそ75%は思川からの取水です。これは思川開発事業に参画することを前提に、毎年暫定的な許可を受けているもので、渇水時等には大きく影響を受けることとなります。

市では皆さんに安定して水道水をお届けするために、安定水利権の確保を目指しています。

大切に使おう 私たちの水

これから暑い夏を迎えると水の使用量も増えていきます。安定した水道水の供給に努めていますが、皆さん一人ひとりの節水によって貴重な水資源を守ることができます。

家計の負担も軽減されますので、普段から節水にご協力ください。

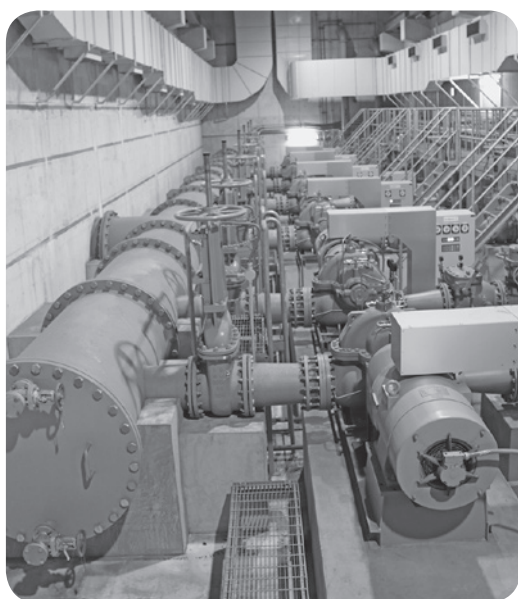
【ポイント1：蛇口の開け閉めはこまめに】

蛇口やシャワーは1分間流すと約12リットル出てしまいます。流しっ放しにせず、コップに注いで歯磨きをしたり、食器の付け置き洗いをしたりしましょう。

【ポイント2：水の再利用を】

お風呂の残り湯を洗濯や清掃、散水に利用しましょう。

◆水道豆知識◆



●配水ポンプ

ここから皆さんの家庭に水を送っています。

このポンプは、最大で毎分3万6,000リットルの水を送り出すことができます。



●蛇口

なぜ「蛇口」と言うか知っていますか。
日本では、龍りゅうが水の神とされています。龍は、地上に蛇の姿で現れるという伝説から、蛇口と名前が付けられました。

◆平成29年度の主な工事についてお知らせします◆

- ① 思川浄水場取水設備建設工事(建築・機械・電気) 【5億3,600万円】
老朽化したポンプの更新工事、受変電設備・建屋の建築工事
※平成28年度からの継続工事。
- ② 三和浄水場受変電設備更新工事 【1億724万円】
老朽化した受変電設備の更新工事
※平成28年度からの継続工事。
- ③ 三和浄水場薬品注入設備更新工事 【9,720万円】
老朽化した薬品注入設備の更新工事
- ④ 配水管整備事業 【5億6,626万円】
水道管の拡張工事、老朽管の耐震管への布設替え工事

緑のカーテンで 身近なECOにチャレンジ!!

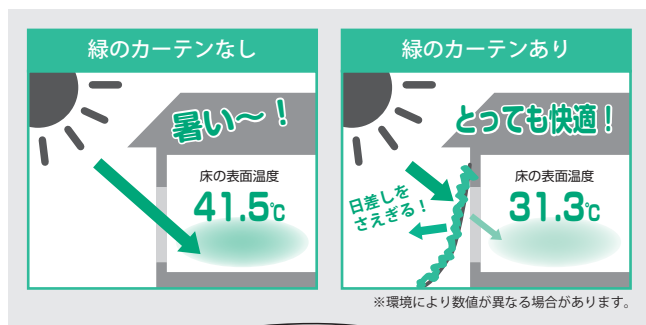
猛暑日が続くことが予想されている夏が近づいてきました。

アサガオやゴーヤなどのつる性の植物を窓の外にはわせることで、夏の日差しを和らげ室温の上昇を抑える身近な取り組みです。

環境月間である6月に「緑のカーテン」の効果を知り、自宅でチャレンジしてみませんか。

【問】環境課(三和庁舎) ☎76-1511

知っていますか? 緑のカーテンの効果!



緑のカーテンだと、日差しをさえぎるから、室内温度がこんなにも違うんだね!



緑のカーテンって どうやって栽培するの?

STEP 1



- ①プランターに支柱とつるもの用ネットを設置する
- ②たい肥をよくなじませ苗を植える

STEP 2



- ③葉に十分な日光を当てて、しっかりと水やりをする
- ④定期的に肥料やりをする

「みどりのカーテン コンテスト」募集中!

自分で育てた緑のカーテンを応募してみませんか?

募集期間

6月1日(木)~8月31日(木)

募集部門

- ・個人部門(住宅等の小規模設置)
- ・団体部門(企業・団体・学校等の大規模設置)

※「ECOフェスタ古河」で各部門の優秀事例の表彰を行います。



完成!

約10週間で緑のカーテンが完成!



ご存じですか？

私たちは健康づくり協力員です

健康づくり協力員は、誰もが安心して暮らせるまちを目指して、地域の皆さんの健康づくりをサポートし、地域に根差した活動をしています。

【問】健康づくり課(古河福祉の森会館) ☎48-6883

健康づくり協力員について

市の健康づくり事業や各種サービスを紹介したり、市民目線の意見を行政に伝えたりと、地域と行政のつなぎ役として、地域に根差した活動を行っています。

自治会や行政区から推薦され、市長から委嘱を受けた129人(古河地区42人、総和地区44人、三和地区43人)の健康づくり協力員で活動しています。

近所の担当者が皆さんの良き相談役・つなぎ役になります。ご不明な点は健康づくり課まで気軽に問い合わせください。

**私たちが
健康づくり協力員です！**

守秘義務があり、皆さんの個人情報を守ります。地域とのパイプ役である私たちに、安心してご相談ください。

こんな活動をしています

木村直子会長



乳幼児健診でのお手伝いや、生後2〜3カ月の赤ちゃんのいる家庭を訪問し、子育て情報や健診、乳幼児健康相談などのお知らせを行っています。

特定健診や各種がん検診、健康相談、離乳食教室、マタニティスクールなどの情報を紹介しています。

鈴木悦子副会長



第2次古河市男女共同参画プランを策定しました

市では、平成29年度から平成36年度までの8年間を計画期間とした、「第2次古河市男女共同参画プラン」を策定しました。社会環境の変化や市民意識調査の結果を踏まえ、これまでの計画の施策を継承しつつ、新たに女性の活躍推進やワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の推進を重点施策に加えた内容です。

また、この計画は「女性活躍推進法」第6条第2項に基づく「市町村推進計画」を含みます。

※詳しくは、市公式ホームページをご覧ください。

【問】人権・男女共同参画室(総和庁舎) ☎92-3111



基本目標

I 互いの人権の尊重と男女共同参画の意識の確立

II いきいきと働ける社会環境の整備

III あらゆる分野における男女共同参画の推進

IV 男女共同参画社会実現のための推進体制の充実



男女共同参画社会の実現

古河市男女共同参画推進会議の新委員が決まりました

市では男女共同参画の推進を円滑に図るため、古河市男女共同参画推進会議を設置し、12人の委員を委嘱しています。新しい委員は右表のとおりです。平成29年4月から平成31年3月までの任期中、次のことについて取り組みます。

- 古河市男女共同参画計画の推進状況の点検・評価
- 市長の諮問に応じ、男女共同参画の推進に関する基本的・総合的な施策や重要項目について調査審議し、その結果を市長に答申
- 市との協働による参画推進施策の実施

▶ 第1回推進会議



	氏名	住所
1	井岡信一	雷電町
2	稲葉茂	稲宮
3	江面陽子	大手町
4	岡部里子	坂間
5	木塚恵子	三和
6	木村義江	上片田
7	楠田和仁	下大野
8	鈴木源一	柳橋
9	関口法子	関戸
10	中沢弘子	尾崎
11	三宅俊子	中央町
12	吉原正雄	仁連

※女性7人、男性5人(敬称略・50音順)。

～女性が活躍する職場を紹介します～

女性の活躍の推進に取り組んでいる茨城県警察。
平成29年4月1日現在、女性警察官の割合は10.3%
で、平成33年度までに12%程度とする目標を掲げ
ています。

古河警察署三和交番 さかい ゆきこ
坂井 由樹子巡査

Q 警察官を目指したきっかけは？

A ドラマやアニメの影響で小さいころ
から憧れを抱き、高校生のころから職業
として真剣に考え始めました。

大学に進学し進路について考えた際
に、小さいころからの夢であった警察官
を目指してみようと思いました。

Q 交番での主な仕事は、どのようなもの
のでしょうか？

A 3班による交替制の当番勤務で警ら
(パトロール)や巡回連絡、事件や事故が
発生した際、第一に駆けつけて対応する
ことが主な仕事です。

Q 体力的にもハードな仕事と思いますが、
勤務中の休憩や仮眠の時間はどの程
度確保されていますか？

A 事件の発生などにより取れないこと
もありますが、仮眠時間は5時間設けら
れています。

当交番は男女別の休憩室が整備されて
いるため不便は感じませんが、まだ、女
性用休憩室が未整備の交番もあります。

Q 警察官としての将来の夢は？

A 大学で学んだ情報処理の知識をい活か
し、深化させてサイバー犯罪捜査に携わ
りたいです。



Q 勤務をされていてうれしいと感じたこ
とは？

A 巡回連絡先などで「ご苦労様です」
と声を掛けていただくといったことがう
れしいです。

Q 結婚・出産後も警察官を続けていく
女性が多いですか？

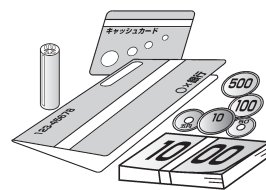
A 育児休業や育児中の勤務時間の短
縮、当直勤務の免除などの制度が充実し
ており、仕事と家庭を両立している女性
が多くいます。

また、男性職員が取得できる育児に関
する休暇もあり、多くの男性職員がこの
休暇を活用して育児に参加しています。

Q さまざまな分野で女性が活躍するこ
とについてどう思いますか？

A どの分野でも共通と思いますが、性
別にかかわらず本人の実力や意欲・資質
によって、求められる場所で自分自身の
生き方を決められれば良いと思います。

市税は納期限までに納めましょう



市税は、福祉や教育の充実、環境保全、道路の維持管理など、市民の皆さんの暮らしを支えるための大切な財源です。

市では、税の公平性を保つため6月・7月を「徴収強化月間」とし、税収の確保に努めています。納期限内納付にご協力ください。

【問】収納課(古河庁舎) ☎22-5111

納付は便利な口座振替を

口座振替にすると、納期ごとに銀行や郵便局、コンビニに出向く必要がありません。納め忘れの心配もなくなりますので、安心・便利・確実な口座振替制度をご利用ください。

手続き方法 最寄りの金融機関または市役所で申し込みください(郵送での申し込みもできます)

持参するもの 通帳、通帳の届け出印

早めの相談を

やむを得ない事情により市税を納期限内に納付することが困難な人のために、納税緩和制度があります。

差し押さえなどの滞納処分を受ける前に、早めに収納課にご相談ください。

納付が遅れると

市役所から通知



①納期限までに納付がない場合は「督促状」を送付します。

市役所から通知



②「督促状」を受領後、一定期間経過後も納付されない場合は「催告書」を送付します。



③その後も納付せず、納税相談にも応じない納税義務者には、「財産の差し押さえ」などの滞納処分を行うことがあります。

※納期限後に納付した場合は、一定の割合による延滞金が生じます。

6月・7月は徴収強化月間です

市では6月・7月を「徴収強化月間」とし、納期限を過ぎても納付しない人や納付する意思がない人に対して、集中的に催告や財産の差し押さえを行います。



納税相談窓口時間延長のお知らせ

- 日時 6月26日(月)～30日(金)
午後5時15分～8時
6月25日(日)・7月30日(日)
午前9時～正午、午後1時～4時
7月25日(火)～28日(金)・31日(月)
午後5時15分～8時
- 場所 市役所古河庁舎(1階) 収納課
※庁舎北側入口からお入りください。

春の叙勲

旭日小綬章



阿部孝行さん
(75歳、駒羽根)
日本電熱機工業
協同組合理事長

旭日双光章



中根董之さん
(81歳、東)
元県歯科医師会副会長

危険業務従事者叙勲

瑞宝双光章



石橋義行さん
(61歳、古河)
元2等空佐

瑞宝単光章



福田守雄さん
(71歳、小堤)
元警視庁警部

瑞宝双光章



薄井光夫さん
(75歳、下辺見)
元川口郵便局長

瑞宝双光章



石丸一男さん
(70歳、南間中橋)
元古河市三和消防団長

瑞宝単光章



瀧則之さん
(61歳、横山町)
元3等陸尉

瑞宝単光章



山中政夫さん
(61歳、水海)
元3等陸尉

瑞宝単光章



斉藤きよさん
(80歳、古河)
元各種統計調査員

瑞宝単光章



小柴哲さん
(65歳、けやき平)
元日本郵政公社職員

姉妹都市だより

～山形県真室川町に行ってきました～



姉妹都市・山形県真室川町の代表的行事「真室川梅まつり」が開催され、5月3日の観梅会には針谷市長と佐藤議長が出席しました。春の息吹を感じながら、井上町長や地元の皆さんと交流を深め、今後の両市町の飛躍と発展を誓いました。

全国大会出場

【第39回東日本軟式野球大会(2部)】
FANTASISTA

注目! まちの話題

新緑とともにキラキラ輝く笑顔
第7回古河こどもまつり

4月29日、古河公方公園(古河総合公園)で「第7回古河こどもまつり」が開催されました。子どもたちに遊びを通して世代を超えた人たちとふれあう楽しさを体験してもらおうと、青少年のための古河市民会議が企画し開催しています。

会場では、「大声コンテスト」や「おもしろ科学教室」など19団体による模擬店開催や、9団体の子どもたちがメインステージでダンスや和太鼓を披露。

子どもたちの笑い声とキラキラ輝く笑顔があふれていました。



◀日ごろの練習の成果を、いっぱい披露しました 元気

▶ボールを投げてビンゴにチャレンジ



「諸川宿いこいの広場」完成
皆さんに親しまれる憩いの広場として



▲左から服部秀雄さん、大橋幸治さん、針谷市長、黒崎政男さん

4月17日、「諸川宿いこいの広場」竣工式典が行われました。諸川商店街の一角に完成した広場には、街並みに調和したデザインの軒瓦の塀やあずまやが設置されました。

ベンチ付きのあずまやには、昭和初期の様子を伝える常設の写真が飾られ、集まった関係者は、写真に見入りながら宿場町の繁栄に思いを馳せていました。

諸川宿の由来を案内する銘板や常夜灯が景観に溶け込んだ新たな拠点。これから地域の憩いの場、交流の場として利用されることを期待します。

災害協定締結式
緊急車両等の通行確保強化



▲市と協定を結んだ株式会社サカイレッカーサービス矢部誠代表取締役(右)

5月15日、株式会社サカイレッカーサービス(坂東市)と「災害時における車両等の移動に関する協定」を締結しました。

大規模地震や風水害等の災害時には、路上で立ち往生した車両等により、消防や救助活動、緊急物資輸送などの災害応急対策に支障が生じる恐れがあります。

今回の協定は、これら緊急車両の通行の妨害となる車両等を移動し、災害に対し迅速に対応することを目的としています。

これからも、防災協力体制の輪を広げ、安全安心のまちづくりに努めます。

いつも使用する施設に感謝を込めて
老人クラブ連合会清掃奉仕活動



▲みんなとお喋りしながらだと、あっという間に作業が終わってしまいますね

4月21日の早朝、古河福祉の森会館で古河老人クラブ連合会による清掃奉仕活動が行われました。

いつも使用している施設への感謝の気持ちを込めて、活動拠点の一つを清掃するこの活動。年々参加者が増えており、今年は36団体から約280人が古河福祉の森会館周辺の植え込みの除草や落ち葉掃きなどに参加しました。

「みんなと一緒にだと楽しいから、気合いが入っちゃうわ～」と笑いながら活動する人たちの輪には、温かな笑顔とさわやかな汗が輝いていました。

マレットゴルフ選手権
青空のもと笑顔と歓声が響きました



▲北は宮城県、南は滋賀県から338人が参加。随所で「ナイスショット！」の声が聞こえました

4月29日、「第25回ALL JAPANマレットゴルフ選手権KOGA大会」がリバーフィールド古河で行われました。

T字型のスティックとボールを使って気軽に楽しめるスポーツで、ゴルフの基本ルールに準じて競技が行われます。

カラフルなボールとスティックを使い、初対面のメンバーと36ホールを回ります。緊張がほぐれてきたところに、ホールインワンが飛び出し大歓声。全員で喜ぶ姿が見られました。カップインすると達成感が一気に盛り上がります。健康増進、これからもお元気で！

ふるさと古河新茶まつり
歴史と新緑が香る

「ふるさと古河新茶まつり」が5月14日、古河公方公園(古河総合公園)で開催されました。

古河の昔の風景を来園者に楽しんでもらうために作られた公園内の茶畑。ここで栽培している「さしま茶」は、江戸時代に日本で初めて海外に輸出され、日本茶としての長い歴史があります。

当日は、茶摘み体験や野点茶会、新茶の販売など盛りだくさん。大人から子どもまで袋いっぱい摘んだ茶葉を片手に、「香りがいいね～」「おいしいね～」と新茶の試飲や茶葉の天ぷらを味わいました。さわやかな新緑に囲まれながら、思い思いに新茶を満喫していました。



▲5人のお茶娘も来園者と一緒に茶摘みを行い、会場に花を添えました

★キラリ!★ 輝く人たち

公園と市民の暮らしをつなげる工夫をする専門職が「パークマスター」。この取り組みは平成11年1月に古河市で生まれました。初代パークマスターであり、今年4月に再任した菅さんにお話を伺いました。

日本初のパークマスター

幼少期を古河市で過ごし、御所沼復元など公園建設に尽力された中村良夫氏(東京工業大学名誉教授)は、「公園にはにぎわいが必要である」と考え、当時の古河市長との相談の中で「博物館の学芸員のように公園の活用を工夫し、市民の公園への思いを支援して、人々の出会いを促す役を担うパークマスター」を着想しました。

先生に師事する2人が、パークマスターと同補佐に就任したのは18年前のことです。平成16年に指定管理者制度がスタートすると、今では全国各地の公園で参考にされています。

公園に寄せる思いとの出会い

「市民にとって公園はどういう存在か」という学生時代からの菅さんの自問は、各地の参加型事業に従事する技術者となると「公園づくりで参加の価値はどのように発揮されるか」という課題になったそうです。

パークマスター着任当初の企画は、古民家での「名月なきむし大会」という夜に虫の声を聞く会、秋の葉っぱを組み合わせて六角形の雪の結晶をこしらえる「雪葉図説!」。どろんこ倶楽部、新茶まつり、ジェラテリア応援団、そして(公社)古河市シルバー人材センターの導入にも取り組みました。

「公園ならではの企画づくりに知恵を絞るのも楽しい! 古河には感性豊かで味わいのある人、そして公園を上手に使いこなす人たちが多く。こういった人たちとのやり取りが何よりもうれしい」と話してくれました。

「市民主役の公園づくりを」

すが ひろつぐ
菅 博嗣さん (57歳)



▲イベント参加時の菅さん(一番左)。神奈川県立三ツ池公園(横浜市)にて

市民が思考し主役となれる場所

「人と人をつなぐ、市民の生きがいとなる、健康寿命を延ばす……大切にしていきたいこと。里山、入会地、コモンズのように、みんな^{いりあいち}で育てていきたい。公園は、市民の思いが展開されると味わいが深まり日々の暮らしや人生を豊かにする場になっていく。そんなお手伝いをしたい」と語ってくれました。

平成15年から取り組んでいる「古河総合公園づくり円卓会議」では、公園の^{たたず}佇まい、営み、そして交流を大切に思う市民と行政が集い、アイデアを交換し相談をしながら、市民が自主的に運営する企画も話題にしています。思いのある人は、ぜひ公園までお問い合わせください。

色鮮やかな折々の季節、行き交う人と交わす言葉、気に入った場所に敷物をして書にふけることもできる……。菅さんと話をしているうちに、素敵な景色と爽やかな風を求めて足を運びたくなりました。



▲菅さんがお気に入りの公園内のベストショット
作品名：夏の中山台の流れ 撮影者：野中健司

図書館のススメ

【児童書】

○じいちゃんの鉄工所

田丸雅智 作

海のほとりの鉄工所で、ぼくのじいちゃんは今日も不思議な発明品を生みだしている。それは、すばらしいものばかりなんだけど時々とんでもないことに……！？ じいちゃんの発明品がまきおこす、愉快で不思議な10のおはなし。
出版社…静山社
分類…913タ



【絵本】

○おおかみとわかもの

三木卓 文

ミクス・チャヴァルツ 絵

ラトビアの楽器「クアクレ」を弾くのが大好きな若者が、森の中で穴に落ちてしまった。穴の中にはおおかみがいたが、若者がクアクレを弾くと……。緑



と空気と水に恵まれた自然あふれる美しい国・ラトビアの民話を題材とした絵本。
出版社…かまくら春秋社
分類…Eチ

【一般書】

○日本の美しい色の鳥

上田恵介 監修

大橋弘一 解説

赤色を愉しむタンチョウ、青色を愉しむオオルリ、日本の伝統色になったスズメ……。あらゆる日本の色をまとった野生の鳥たちを、美しい写真と読み応えのある解説、詳細なデータで紹介します。
出版社…エクスナレッジ
分類…488二



○本格力

喜国雅彦、国樹由香 著

本当にお勧めしたい古典ミステリを選ぶエッセイ「H-1グランプリ」などで構成する、本格ミステリを紹介するブックガイド。国樹由香のエッセイ&漫画も収録。『メフィスト』連載を単行本化。
出版社…講談社
分類…902キ



三和図書館

注目 企業人

～市内の企業を元気に支えるみんなを紹介～ 「お客様のためにスキルアップを」

株式会社船橋 ^{かけはた} 欠端鉄也 さん

昭和56年に街の電気屋さんとして創業し、お客さんのニーズに応え、今では電気設備や給水設備の工事を行う(株)船橋で働く欠端さん。

最初は車の部品を製造する工場でしたが、「資格を取って手に職をつけたい」と思い、現在の職場に転職。今年で9年目になります。

入社して2年目には第二種電気工事士、7年目には第一種電気工事士の資格を取得。現場の最前線で働く欠端さんですが、工場などの大規模な電気設備の工事となると、複雑な配線図を見たり、電気容量計算が必要となるので「まだまだ勉強が足りない」と反省することが多いそうです。

「電気は高圧だけではなく、家庭で使っている100Vでさえも命を落とす危険性があります。一つのミスが大惨事につながるので、気が抜けないことの連続です」と話す顔は真剣そのもの。

「高いところでの作業は、結構怖いんですよ～」と笑いながら話す欠端さんは、電気工事施工管理技術士などの次なる資格取得、さらなるスキルアップを目指しています。

■プロフィール

友達とお酒を飲んでワイワイと楽しむこと、映画鑑賞が趣味
34歳・駒羽根在住



古河文化見聞録

古河の文芸活動 ～古河の文学的風土をさぐる～

多くの文学者を輩出し、また多くの文学作品に描かれてきた「文学のまち・古河」。

歴史と文化が重層する古河には、もともと文学的風土があったともいえますが、今回は「文学のまち」を形成した直接的な要因となった、近現代の古河における文芸活動の一端をのぞいてみたいと思います。

『古河郷友会雑誌』創刊

今からちょうど125年前。明治25(1892)年6月、1冊の雑誌が誕生します。

東京で活躍する古河を同郷とする人々が、郷土の発展と人材育成を目的に結成した古河郷友会の機関誌『古河郷友会雑誌』です。

この雑誌では、郷友会の活動報告や郷土情報の他に「論壇」「史林」「文苑」などの欄が設けられ、会員たちによるさまざまな創作が発表されていました。

幕末の古河藩家老・小杉監物の孫で、東京大学から早稲田大学ヘラフカディオ・ハーン(小泉八雲)を招聘、師事した小杉乃帆流も作品を寄稿していた一人です。早稲田大学文学

部卒業後、^{えいか}盈科中学校の教師をつとめるかわら、盛んに詩歌等の作品を発表しました。

さらに、小杉が主宰した地方新聞『北総の実業』(のち『関東タイムス』)の文芸欄には、早稲田大学の同級生だった相馬御風や野尻抱影^{えいし}といった中央文壇で活躍する文学者たちも寄稿し、地方文芸の底上げに一役かっています。また、この頃には、文学愛好者たちの会合もよく開かれていたようです。

『河ぞひ』と文化活動

大正14年1月、俳句仲間だった落合和吉と塚田保蔵が中心となり、矢田挿雲^{やだそうん}、野口雨情、橋本渡川^{とせん}、小杉乃帆流、横瀬夜雨^{やう}といった人々を客員に迎え、『河ぞひ』という同人誌が発刊されます。昭和2年5月まで発行されたこの雑誌は、古河はもとより、近隣の境、結城、下妻、さらには埼玉、栃木、東京などからも多くの同好の士が集う、しかも、俳句、短歌、詩、随筆、小説、戯曲^{ぎきよく}を掲載するいわば総合文芸誌でした。その活動ぶりは当時の



▲古河郷友会雑誌。昭和17年まで51年間・72号が発行された



▲明治44(1911)年4月、藤懸静也と小杉乃帆流の主催により開催された第5回文芸同好会



▲『河ぞひ』大正14年7月号



▲戦後に発行された同人諸誌

『文芸春秋』で紹介されたり、高見順の『昭和文学盛衰史』の中で、主要地方文芸誌164誌にあげられていたりしています。

また『河ぞひ』に結集した同人は、終刊後も新民謡運動や最初の古河文化協会の設立(のち文化連盟に発展拡大)でも中核を担うなど、古河の文化活動に大きく貢献しました。

ちなみに、古河町長を務め、文学に造詣が深く、歴史小説家・永井路子氏に大きな影響を与えた叔父の永井三郎も『河ぞひ』のよき理解者であり、文化協会では発起人・理事として名をつらねています。

戦後の文芸興隆

戦後まもない昭和20年11月には、いち早く『スベニール』という同人誌活動がはじまっています。永井路子氏も第2号にロマン・ロランの作品論を寄稿、他の同人たちも意欲的に創作を続けますが、大変残念なことに



▲『スベニール』第2号～第6号

『スベニール』はGHQの検閲にかかり、第6号で廃刊のやむなきにいたりしました。

しかし、その後も『途上』『文化』『文学運動』などの同人誌が相次いで発刊され、さながら「同人誌の時代」ともいえるべき文芸興隆期を迎えます。

昭和27年に創刊された短歌誌『真久良我』は、その後『詩群』と名を改め、短歌・俳句・現代詩を網羅した総合詩文学誌として、最盛期には100人以上の同人を擁し、詩集・歌集・句集などの『詩群叢書』を刊行するほどの活動をみせました。

県下唯一の「文学館」があるまち

こうした先人たちが育んできた濃密な文学的風土を背景に、平成10年に古河文学館は開館しました。詩歌・小説・児童文学等、さまざまなジャンルの文学をカバーする「文学館」としては、今のところ茨城県下で唯一の存在です。

この貴重な文学的風土を大切に継承していかなければ、できれば一寸発展させられればなどと、大それたことを夢想しつつ、心を新たにする今日この頃なのです。

古河文学館学芸員 秋澤正之

※当館では『河ぞひ』など、古河で発刊されていた同人誌を収集しています。お持ちの人は、ぜひご一報ください。



今年も熱中症に 気をつけましょう

熱中症は、暑さに体が慣れていない梅雨明け前後には特に注意が必要です。

早めの暑さ対策で、今年の夏を元気に過ごしましょう。

熱中症の症状は？

体温上昇、めまい、体のだるさ、ひどい時には、けいれんや意識障害などが起こります。

室内にいても、子どもや高齢者は自覚がないまま熱中症になる危険もあり、周囲の人が協力して注意深く見守ることが大切です。

予防のポイント

①室内環境を整える

・室温28℃、湿度60%を超えないようにします。無理な節電はせずに、適度にエアコンや扇風機を使いましょう。

・室温を上げにくくする工夫として、遮光カーテンやすだれ、屋外に植物を植える緑のカーテンもおすすめです。

②水分と塩分補給

・のどが渇く前に、こまめに水分をとりましょう。寝る前にも水分をとり、枕元にも用意しておきましょう。高齢者や子どもは、特に意識してとるようにしましょう。

・多量の発汗後には、スポーツ飲料や経口補水液等（けいこうほすいえき）を飲むのも良いですが、病気などで水分や塩分に制限のある人は、主治医と相談してください。

③外出時の用意

・通気性や吸湿性の良い衣服等を選び、日傘や帽子等で直射日光を防いで、無理せず適度に休憩をとりましょう。

・外出先で体を冷やすため、保冷剤や冷たいタオルなどを携帯しましょう。

④暑さに負けない体づくり

急な気温の変化に備えて、日頃から体力をつけておくことが大切です。バランスの良い食事や、睡眠・休養を十分にとり、運動で汗をかく習慣を身に付けておきましょう。

⑤熱中症情報の活用

テレビやラジオの天気予報で「高温注意情報」や「暑さ指数」など、熱中症への注意を呼びかけているので役立てましょう。

熱中症が疑われたら 早急に対応を！

●涼しい場所に移動して体を冷やす

日陰やエアコンの効いた室内へ移動して、衣服を脱いで体を冷やします。

●水分と塩分を補給する

水やスポーツ飲料などを少しずつ飲みます。意識のない人には、無理に飲ませてはいけません。

●重症の場合はすぐに受診を

自力で水分が飲めない、けいれんや意識障害等がある場合には、ためらわずに救急車を呼ぶなどして、直ちに医療機関を受診しましょう。

健康づくり課

知っているようで知らない！？

熱中症予防クイズ

Q1 熱中症予防には、帽子を常にかぶっておけば安心？

A1 **×** 帽子を長時間かぶり続けると、帽子の内側に熱がこもり熱中症になりやすくなります。日陰では時々脱いで、換気をしましょう。

Q2 よく冷えたビールは水分補給に最適？

A2 **×** アルコールは利尿作用があり、体内の水分を排出しやすくなり逆効果です。コーヒーや緑茶等も利尿作用があるので、水分補給としては注意が必要です。

Q3 体を冷やす時には、額を冷やすと良い？

A3 **×** 首や脇、脚の付け根、膝の裏等の太い血管が通っているところを、冷たいタオルや氷で冷やすのが効果的です。

憩いのパークの魅力

ほたるの里とアジサイ



◀ 幻想的な明かりを放つホタル

爽やかな5月は終わり、ネーブルパークではショウブからアジサイの季節へと移り変わろうとしています。この時期、ネーブルパークほたるの里では、ホタルが暗闇をほのかに照らす明かりとなって空を舞っています。

平成16年に作られた「ほたるの里」では、ほたるの里友の会が中心になってホタルを育てています。種類はゲンジボタル、大きく強い光が特徴です。今でこそ、元気に飛び回っているホタルですが、それまでは、試行錯誤と苦労の連続だったと聞いています。

作られた当時、ホタルに合う水を探しあてることが重要でした。十数メートルの井戸を掘りましたが、鉄分の混じった赤い水が出てきてしまい失敗でした。

次に100メートル以上掘り、やっとホタルの好きな「甘い水」が出たそうです。他にも井戸水を引き上げるポンプが

故障し、せせらぎの水が干上がってホタルの幼虫が死にかけたり、幼虫がザリガニに食べられてしまうため定期的に駆除を行ったり……。

そして昨年、ほたるの里では護岸の改修を行い、ザリガニが住みにくいせせらぎにし、今年の春には、せせらぎの辺りにアジサイを植え、同じ季節に楽しめるようにしました。

今年も6月3日に「第14回ほたるまつり」が開かれます。ホタルは6月半ばまで鑑賞できます。ホタルの神秘的な明かりを楽しみに来ませんか。日中は彩り豊かなアジサイも楽しめますよ。

※ホタル鑑賞時間は午後9時まで。ホタルは強い光を嫌います。ハンドライトを当てたり、フラッシュを焚いたりするのは厳禁です。

【問】ネーブルパーク管理事務所 ☎92-8752



表紙写真



古河城の出城界限に位置する古くからある建物で、国の登録有形文化財に指定されている「お休み処 坂長」。石畳の道路を和服で歩く姿を見ると、昔にタイムスリップしたような感覚になりますね。

雪華文様がかわいらしい古河ブランドの「こがのかさ」も和服に合わせるといつもと違う雰囲気です。

ジメジメとした梅雨でも、こんなおしゃれをして出かけると、晴れやかな気分になりますね。



寄付



株式会社渡辺興産より、防災施策への活用として18万円の寄付。

古河市データ

人口

(5月1日現在) 住民基本台帳から
総人口 144,197人 (+11)
男 72,670人 (+83)
女 71,527人 (-72)
世帯数 60,063世帯 (+225)
() 内は前月比



古河で暮らし
こが暮らし こが育ち。

わが家のアイドル



川田 いちかちゃん (1歳5カ月・上辺見)

お外遊びが大好きな赤ちゃん。お兄ちゃんと追いかけて遊んで元気いっぱいです。最近では自分で何でもやりたがる姿を見せてくれます。これからもう赤ちゃんの成長を見守っているね♥ (父：浩行 母：美佳)

Kogastagram



古河市 citykoga-official



ID:keiko_0907 DATE:2017.4.23 #田んぼ#青空#雲

古河市の公式インスタグラムに掲載された写真から、ベストショットを毎月1枚選出し掲載します。「#こが暮らし」「#こが育ち」のハッシュタグを付けて、ぜひ投稿してください。

※投稿にはスマートフォン等に専用アプリのインストールが必要。
※古河市プロモーションサイトもぜひご覧ください。



子育てアドバイス

最高の褒め言葉「ありがとう」



「こどもの効果的な叱り方を教えてください」と聞かれることがありますが、どうしても叱らなければならぬときは、その場で子どもの目を見て「これはいけない事」と、簡潔にきっぱりと伝えることが大切です。

大人は「○○してはだめ」と言いますが、それでは子どもはどうすればいいのかわかりません。叱る時は、今度はどうすれば良いのかをきちんと伝えること。「今度は○○しようね」と言うことが効果的です。

叱り方も大切ですが、褒め方が上手になるだけで、叱ることが自然と減ってくるものです。子どもを褒めるときには、大切なポイントがあります。最も有効的な褒め言葉は「ありがとう」です。「ありがとう」はお礼の言葉であると同時に、相手の存在価値を伝える言葉でもあります。

私たちが人から「ありがとう」と言われてうれいのは、お礼を言ってもらったこと以上に、自分の行ったことが「人の役に立って」「自分の存在に意味があった」と思えるからです。

ちょっとしたことで「ありがとう」「助かったよ」と言ってもらえると、「自分も人の役に立ってるんだ。自分も必要とされている」と思うことができます。それが心の成長の基礎となり、社会の一員として成長することでしょう。

「ありがとう」は、自己肯定感を育てる最高の褒め言葉です。

あゆみ保育園



●市内幼稚園・保育園等が交替でこのコーナーを担当しています。

平成29年6月1日発行

●発行所／〒306-0291 茨城県古河市下大野2248 古河市役所 20280 (92) 3111
●編集／秘書広報課 ●ホームページ／<http://www.city.kogakogastagram.jp/>